

第1回図書館協議会の論点整理「図書館サポーターについて」

20151127図書館協議会資料1

導入の動機・目的・留意点	要素	市民に想定される効果	結果として図書館に想定される効果
<p>「豊中市立図書館中長期計画」グランドデザイン28のプラン(No.27)「図書館サポーター制度」</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動を通じて図書館への親近感、生きがい等を感じられる機会やPR等活動の機会と場を提供。 新たな形で市民の社会参加の場づくりや図書館の支援者を増やすため図書館サポーターの導入を推進。 	<ul style="list-style-type: none"> これまで図書館が取り組んできた市民協働とは別の形で「図書館サポーター制度」を考えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民にとって新たな形で図書館に係る選択肢が広がる 	<ul style="list-style-type: none"> 幅広く市民と新たな関係性を育める 図書館職員の意識改革
<ul style="list-style-type: none"> 個人単位での活動 	<ul style="list-style-type: none"> 個人参加で図書館で活動・・・気軽さ・気楽さ・楽しいのきっかけづくり 一人でも気軽に参加しやすい内容 技術がなくても参加できる。 何か惹かれる、面白そうなどに見える 得意なことや図書館に関わる 自立した市民として自分の意思で「参加・やめる」を判断 自主的に関わりたい市民には機会を提供 	<ul style="list-style-type: none"> 参加者にとって生きがい、やりがいを感じる 得意なことを活かして、充実感を得られる 	<ul style="list-style-type: none"> 口コミなどのPRにより図書館の支援者(応援団)が増える 図書館に対する理解の深まり
<ul style="list-style-type: none"> 図書館サポーター制度の活動を通じて新たな「場」としての機能も視野に。(基本的役割としての「資料・情報の提供」を踏まえる) 	<p>市民が社会参加により地域とつながる。</p> <ul style="list-style-type: none"> リタイアした世代の市民にとって機会提供 なんらかの事由により孤立しがちな市民への社会参加の機会提供 	<ul style="list-style-type: none"> 活動の経験が自信や誇りになり、生涯学習における刺激となる。 地域でのコミュニケーションの活性化 社会貢献への参画の意識 生きがいやりがいを感じる 自分の場がある 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者だけでなく、市民が誇りに思える図書館になる。
<ul style="list-style-type: none"> 本来図書館がすべきことは図書館がする(行政の下請けでない)形 ⇒ どのような形で「やりがい」という視点を持つ 	<ul style="list-style-type: none"> 図書館として本来の役割・機能を示したうえで、きちんと市民の気持ちを反映させる仕組みづくり 	<ul style="list-style-type: none"> 図書館が調べものをしたり、知的好奇心を満たす場所であることを理解し、それにつながる活動ができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書館の機能について理解している市民が増える。
<p>その他意見</p> <ul style="list-style-type: none"> PTA活動として学校図書館で協力されている本の修理やよみかせ、中学生の職場体験の広がり(カウンター業務を中心に)があるとよいのではないか。 チラシ作りや企画等の能力に長けた人も多い。 大学生も対象となる可能性がある。等 		<ul style="list-style-type: none"> 異年齢のコミュニケーション 若い世代が親以外の大人と話をする経験を積める 図書館で提供されているサービスについて、サポーターから利用者目線の意見や疑問の提示 	<ul style="list-style-type: none"> 図書館サポーターと共に取り組むことで、図書館サービスをより活性化できる